

素地の調製

透明釉や透明性のある色釉、例えば青磁などは釉薬が透けて素地の色が映るため、同じ釉薬でも磁器、白土、赤土の各坯土により釉の呈色が異なって見える。また、陶器坯土やせっ器坯土では、坯土に含まれる有色金属酸化物(Fe₂O₃, TiO₂, MnO₂など)の含有量や焼成雰囲気により呈色が大きく変化する。さらに焼成温度が異なると、同じ素地でも緻密化状態が異なるため呈色が変化する。このことから釉薬と素地を独立して考えることはできない。

今回の実験では、白土—黄土(泉陶料)—童仙房(細)を用い、配合割合を変えた時の呈色と素地の質感を酸化焼成と還元焼成、冷却還元焼成の3パターンの焼成方法を用いて観察する。

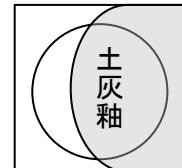
【実験内容】

◆使用素地原料……… 白土、黄土(泉陶料)、童仙房(細粒)※乾粉に水を加えて使用

◆釉薬…………… 土灰釉(日本陶料)

【施釉方法】

2/3程度施釉し、一部焼き締めにする。



◆焼成…………… 酸化焼成1230°C

還元焼成1250°C

冷却還元焼成1250°C

◆調合量…………… 素地を合わせる場合、湿式(泥しようの状態)で混合するが、時間の関係で坯土合わせをする。童仙房についても坯土にした後に重量を量る。

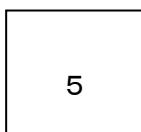
1ポイント当たりの調製量は、500gとし、手で十分混練する。

◆ピース数…………… ポイント × 焼成 × 人数(1セット産技研用)

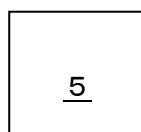
$$18 \times 3 \times 4 = 216\text{個}$$

余ったら余分につくってください

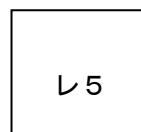
◆裏書…………… テストピースを押した時に記号を彫り込む



OF



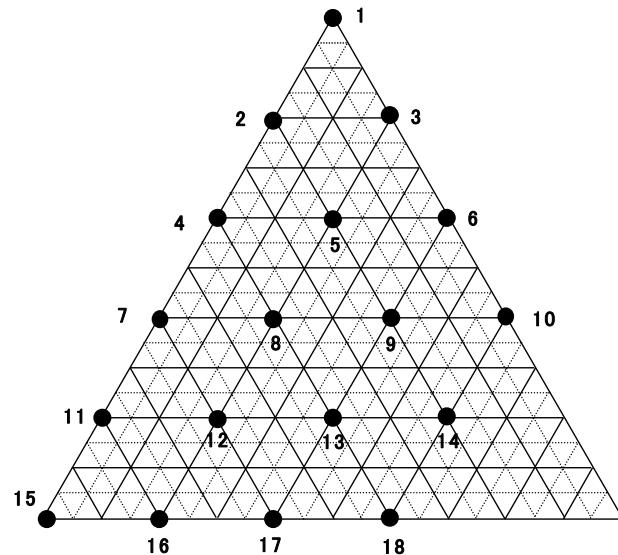
RF



冷却還元

白土

◆ポイント



黄土(泉陶料)

童仙房(細)

■調合表(500g調合)

ポイント	白土300	黄土	童仙房	ポイント	白土	黄土	童仙房
1	500	0	0	10	200	0	300
2	400	100	0	11	100	400	0
3	400	0	100	12	100	300	100
4	300	200	0	13	100	200	200
5	300	100	100	14	100	100	300
6	300	0	200	15	0	500	0
7	200	300	0	16	0	400	100
8	200	200	100	17	0	300	200
9	200	100	200	18	0	200	300

■調合担当

氏名	ポイント
清水	1~6
横山	7~12
NG	13~18